

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Yくまーず未来Kazaoka津（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	R7年 10月 1日 ～ R7年 10月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	R7年 10月 1日 ～ R7年 10月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 11月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「 子どもへの適切な支援の提供 」	・ 20名定員の中で子ども同士の相性も踏まえ、部屋を使い分けながら支援の提供をしています。	・ 9月から20名定員を10名定員の2事業所と変更することによって、子どもたちに対しての細かなケアができ、尚且つお出かけ等の社会性の経験についての活動も提供していくなど、プログラムの充実について更に強化していきたいと考えています。
2	「 イベントによる保護者同士の交流会の設定 」	・ イベントについては季節ごとにイベントを実施して子どもたちだけでなく兄弟の方や保護者同士で交流できるように企画しています。	・ 地域の方にも来て頂き、楽しんでもらえるように更なるイベントの工夫をしていきたいと考えています。
3	「 スタッフ間の協力・連携 」	・ 常にライン等を使用してスタッフ間で子どもたちに対する支援や施設内情報の共有をしています。また、訪問看護のスタッフとも連絡を取り合い子どもたちについて情報の共有をしています。	・ 定員が10名の2事業所になることで、さらにスタッフ間のコミュニケーションが取りやすい環境になり、子どもたちに対する支援の充実に繋げていきたいと考えております。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「 外部との連携 」	・ 相談支援事業所の方とはお話をさせて頂く機会もあります。ただ通っている園の先生とはお迎え時に子どもたちの様子を少し伺うのみで、深く様子を聞くことがない為、情報共有が少ないかもしれません。	・ 可能ならば普段通っている園に直接伺い、子どもたちの様子を聞いて支援の充実に向けていきたいと考えています。また子どもたちが通っている別の事業所とも交流できるか今後模索していきます。
2	「 地域との関わり・交流 」	・ 地域の方との交流する機会はありません。	・ 活動の一環で近くの児童館に行って様々な子どもと接する機会を提供することや、季節のイベント時において地域の普段お世話になっている会社のご家族を招いて楽しんでもらう機会を提供することで地域の方との交流する機会を増やしていくことを検討していきます。
3	「 丁寧な保護者への説明 」	・ 定員が20名という事業所では普段の様子や保護者の方への細かな説明が足りない部分があったと感じています。	・ 定期的な面談を設定することで、子どもたちに対しての支援や普段の様子、相談できる環境の設定など更なる保護者の方とのコミュニケーションの充実を目指していきます。また説明会も設定するなど保護者の方の不安を解消できるように努めていきたいと考えております。